

会議結果報告書

令和8年1月20日

会議の名称	令和7年度第3回志木市立図書館協議会
開催日時	令和8年1月20日（火）15時00分～16時10分
開催場所	いろは遊学館 3階 第三研修室
出席委員	原藤光委員（会長）、竹前榮二委員（職務代理）、赤沢直幸委員、坂本定義委員、青野玲子委員、矢部英子委員、石川敬史委員 (計 7人)
欠席委員	木原恵美委員、冨増亮介委員、加藤紗千子委員 (計 3人)
説明員職氏名	(柳瀬川図書館) 桜谷館長 (いろは遊学図書館) 竹田館長 (宗岡公民館) 佐野館長 (宗岡第二公民館) 吉田館長 (計 4人)
議題	「第四次志木市子ども読書活動推進計画」素案（意見公募の結果）について
結果	(傍聴者 0人)
事務局職員	早川主査

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 あいさつ 原藤会長

3 議事

「第四次志木市子ども読書活動推進計画」素案（意見公募の結果）について

※配布資料をもとに柳瀬川図書館長より説明

会長）「第四次志木市子ども読書活動推進計画」素案（意見公募の結果）について、何か意見はあるか。

会長）意見公募で出てきた意見にある“ブックスタート”は、どのような事業か。どのような絵本をプレゼントしているのか。

説明者）『いないいないばあ』を基本図書として、『くだもの』『あぶくたった』など図書館が選定した複数のタイトルから保護者の方に選んでいただいた赤ちゃん絵本1冊をプレゼントしている。

委員）協議会委員にもいらっしゃるが、絵本専門士が、ブックスタート事業で活動されているのか。

説明者）ブックスタートでは、柳瀬川図書館のブックスタートボランティアが保護者向けに読み聞かせなどを行っている。

委員）自分もブックスタートボランティアの一員なので、ブックスタート事業について補足する。9か月児健診で絵本を1冊差し上げるのと同時に図書館の場所や事業などを案内している。また、同時に赤ちゃんと保護者に対して読み聞かせを行っている。赤ちゃんが絵本に反応することに驚く保護者もいる。

委員）ブックスタートは何人くらいで行っているのか。

委員）ブックスタートの時は、ボランティア6名体制で行っている。

説明者）毎月9か月児健診時に行っている。事業開始時は、1月50人以上が配布していたが、現在では、40人いないこともある。当日欠席した場合は、後日母子保健推進員さんから絵本を配布いただく。対象者の99%には、配布している状況である。

委員）読み聞かせを行っているとのことだが、読み聞かせ後に母親同士が情報交換できるか。読書だけでなく母親同士が直接話せる情報交換の場もあると思う。

説明者）ブックスタート事業は健康増進センターが実施する9か月児健診の場を活用させていただいているため、事業自体の拡大はできない。ブックスタート時に図書館室で行うフォローアップ事業の案内をしているので、情報交換の場の紹介には、なっているかもしれない。

会長) 前回の協議会で不読率を解消するための取組について、意見が提出されたと思うが、計画には、どのように組み込まれているか。

説明者) 前回の協議会で計画の指標として、子どもの数は減少するのに貸出冊数の増加を目標とするのは難しいのではないかと、というご意見をいただいた。指標の一つである不読率については、現在、市内の小学校・中学校では、全国平均より良い値となっており目標値は定めるが、貸出冊数も、このまま指標として採用する予定である。目標を達成するため、4月23日子ども読書の日になんだ「志木っ子読書週間」や「志木っ子家読(うちどく)デー」を具体的な取組として計画に盛り込んだ。委員の皆様からも家庭の影響が大きいとのご意見があったが、月に一度、親子で本に親しむことで、読書が生活の一部になるような習慣づけを子ども頃から浸透させていきたい。

会長) 前回の意見にも出ていたが、“多様性”の部分がかなり特長的になっていると思う。具体的な取組は、どのようなものか。

説明者) 計画で具体的な取組として、「りんごの棚の設置」と「多言語コーナーの設置」を記載している。「りんごの棚」は、いろは遊学図書館ではすでに設置済だが、柳瀬川図書館にも設置する。将来的には、市で実施している国際交流イベントとタイアップできると良いと考えている。

委員) 学校図書館の開館拡大については、どうなったか。

説明者) 全校一律に開始するのは難しいので、条件の整備を一步ずつ進め、実施できる学校から行っていく予定である。そのため、施策として取り上げている。

委員) 校長会でも話題に上がっており、学校図書館が奥まった場所にあるなど施設管理の課題もあり、まずは学童保育クラブに通う児童の利用から始めるなど、各校の状況に合わせて少しずつ整えていく予定である。

会長) 「基本方針4 図書館・学校・地域・家庭の相互連携推進体制の確立」の重点目標Ⅲ「施策1 市民ボランティアとの連携」にある新規取組「子ども食堂等での児童書の配架」について、詳しく説明いただきたい。

委員) 子ども食堂を管轄する子育て関係部署の会議に出席して、子ども食堂など子どもの居場所に、管理面など気を配らなくても利用できるよう図書館で除籍した本を置いて、本に触れあう機会を作っていきたいという話をしている。
児童発達相談センターとも調整を行って、絵本を読む機会を作りたいという話をしている。

委員) 「志木っ子家読(うちどく)デー」の取組が良いと思った。家族の読書習慣は子どもに影響するので、非常に良いと思った。おはなし会ですばらしい語りを聞いてしまうと、読み聞かせをためらう親御さんもいるが、ためらわずに読んで一緒に

本を楽しんでほしい。

委員) 小学校入学前だけでなく、その後の人生の転換点で図書館が厳選した本を贈る「セカンドブック」という取組があっても良いのかな、と思った。人生で何かあったときに振り替えられるような作品であると更に良いと思う。

説明者) 「セカンドブック」については、予算にも関係してくるため、すぐに実施することは難しいが、「基本方針2子どもが読書に親しむ機会の提供と充実」の重点目標Ⅱ「施策2学校における朝読書等の読書活動の推進」の具体的な取組として、「卒業までに読みたい本リストの配布」を予定している。

会長) 前回・今回と計画について協議を行った。計画を機に子どもだけでなく、大人も本を親しむ機会を広げていけるとよい。

今後のスケジュールについて、説明を願う。

説明者) 1月の教育委員会で意見公募結果を報告する。2月の教育委員会で計画について付議し可決すれば決定となる。

会長) 来年度以降、計画に対し図書館協議会として行うことはあるのか。

説明者) 計画の進行をP D C Aサイクルにより行う予定である。C h e c kにあたる点検・評価をお願いしたい。

会長) 来年度、この協議会で協議するような大きな事案があるか。

説明者) 来年度は、3回目の志木市図書館を使った調べる学習コンクールを実施するので、第二次審査を行ってほしい。

会長) 議案の協議としては、以上となる。その他として何かあるか。

説明者) 図書館を使った調べる学習コンクールの全国コンクール審査結果発表があった。小学校作品9点、中学校作品1点の計10点を出品した。そのうち小学1年生の作品2点が奨励賞を受賞した。

会長) 計画策定を機とした各館の取組などを教えていただきたい。

説明者) いろは遊学図書館では、計画の内容を踏まえ、新規事業にも取り組んでいきたいと考えている。

説明者) 宗岡公民館は、地域性もあり、小さい子どもの来館が少なく、主な利用者が高齢者である。親子で参加する事業で読み聞かせも実施するなど、機会を活用し、小さい子どもへのP Rを実施したいと考えている。

説明者) 計画策定にあたり、家庭での取組の大切さを実感した。宗岡第二公民館としても子ども読書活動の推進に努めていきたい。